

MAP



子供達が陽ざしを浴びて芋を掘る。「採れた?」「採れた!採れた!」あちこちで歓声が上がる。調理室では慣れない手つきで琉球料理に挑戦。恵まれた自然環境が土とふれあい、生命を支える。いのちの源、農業を体験しながら、生きる醍醐味を、味わうことができる。

体験といえば、やはり芋掘りが元祖。紅芋掘りは、ここ中部の読谷村でのみ体験できる。豊かな自然はリラックスするだけの場所じゃない!素晴らしい景色を知るためには本格的に汗を流してもいいじゃないか。本当の自然とふれあうことのできる「農」の学校がここ中部には数多くある。

ハーブ体験もなかみで、ハーブを使った料理やボブ、石けんづくりも体験できる。ハーブ園にちょっと寄り道して、この空間を味わってみてはいかが。



紅いも郷土料理創造中!?

紅芋の利用は、特産品の項にも紹介しているがふかし芋や焼き芋、芋でんぶから食するのが一般的加工原料としては粉末やペーストで売られている。読谷村婦人の家では沖縄料理を体験するツアーや、修学旅行生達が郷土料理作り挑戦している。講師はその道ベテランの生活研究会のメンバーが懇切丁寧に教えてくれる。

メニューは紅芋を使ったバイなどのお菓子やゆしとうふ、豆腐ちゃんぶるーなど多彩な料理が楽しめる。要予約。

連絡先は読谷村観光案内所(09819581778)

「ハーブ」をもっと知ろう。

ハーブティーを頂きながらガーデニングの勉強や、ハーブの石けんづくりを体験しませんか。休日に少しだけ立ち寄って心と体のリラクゼーションにハーブが効果的。また、友達同士や家族の語らいの場として気軽に立ち寄ってみてはいかが。



【SHIMA】

読谷村座喜味の「SHIMA」は6年前にオープンし、ハーブの苗や加工品を販売している。ハーブ園は住宅地内にあり、ローズマリーやニオイゼラニウム、ヘリオトロープなどが鉢植えで並んでいる。

苗の生産・販売のかたわら、ガーデニングやハーブの楽しみ方についての講師としても活躍している。将来はハーブ喫茶を営むのが夢とのこと。

ハーブ園は月・火曜日を定休日としているが来訪者は予約が必要。採集禁止のマネー遵守の方歓迎。

(読谷村座喜味1262 TEL.098-958-5523)

【ハビネスハーブガーデン】

宜野湾市にあるハビネスハーブガーデンは、街の中にあるやすらぎの空間。生き生きとしてすてきなご夫婦が経営するハーブ園は、宜野湾市愛知の国道330号線から約400m、徒歩3分。園内は3,000㎡の広さに、1000㎡のハウスがあり、約140種のハーブが植栽されている。

体験コーナーでは、ボブや自家製ハーブを使った石鹸づくり、押し花などが楽しめる。苗の養成から作り方についても丁寧に教えてくれる。また、ハーブ料理も献立から料理法まで体験可能。午前10時からオープン。いずれの体験も予約が必要。

(宜野湾市愛知264-1 TEL.098-986-2625)



土に親しむ。

豊かな自然の素晴らしさを知るため、地球を心で味わうため、土に触れ、そのにおいまで堪能する。私達が地球の一部であるという感覚を汗を流して感じる。人は大地にしっかりと根を下ろし生活してきたその雄大な歴史さえも感じることができる。本当の自然と触れあうことができる。なかみでの「農」の学校で体験しよう。



読谷村は紅いもの産地。その紅芋に関する多くの体験が企画されている。行事のひとつに植え付けから収穫までを親子で体験する「ファミリー農園体験教室」が開催されている。農業への理解を深めると共に、子供から大人まで楽しみ、家族の絆を結びつける。

読谷名物、芋掘体験!

【読谷村玉城さんの農園で芋掘り体験】



読谷村では10年ほど前、土地改良が終わり紅いもが本格的に作られ始め、商工でも紅いもの特産品とする村おこし事業が始まった。それ以前にも芋掘り体験は行われていたが、本格的な取り組みは玉城さんが始まり。都市部から日帰りが楽にできる読谷村の地の利を生かした企画である。那覇市、浦添市、宜野湾市など都市部の保育園や幼稚園、養護施設などから多くのお客さんが来園。500円の入場料で約2.5kgの芋を掘ることができ、希望者には焼き芋作りも体験できる。近くには座喜味城跡や残波岬もあって遠足気分も味わえる。子供が素手でさわる土だから農業は使っていないとのこと。

(読谷村座喜味75 TEL.098-958-3949)